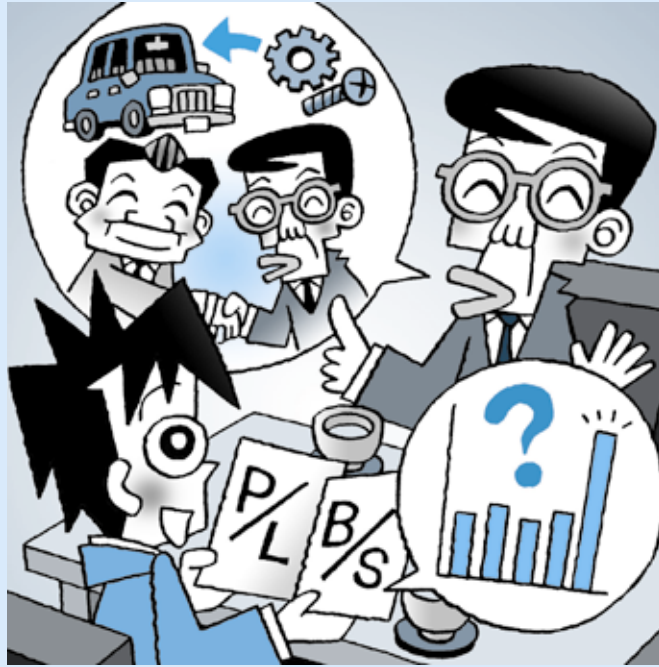


の営業活動を えた決算書の 分析ノウハウ

企業 踏ま

特集

●押さえておきたい作成の流れと
変化のとりえ方



**企業の経営方針や
取引の流れを知ることが
正確な実態把握につながる**

新 年度を迎えると取引先から
昨年度の決算書を受け取る
機会が増えてきます。決算書と
は、決算日の財政状態や1年間の
経営成績を明らかにしたもので
す。多くの企業は会計年度を4月
1日～翌年3月31日に設定してい
るため、5～6月は、金融機関担
当者は決算書を受け取ることが増
える時期といえるでしょう。

**決算書の分析で
取引先の定量面を把握する**

企業の成績表ともいえる決算書
を分析することは、財務の安全性
や経営の安定性、収益力や支払能
力など、定量面から企業の実態を
把握するのに欠かせません。

決算書は「貸借対照表（B／
S）」「損益計算書（P／L）」の
2つの書類が中心になっていま

このほかにも、株主資本等変動
計算書や個別注記表、勘定科目内
訳明細書などの書類を確認するこ
とも重要です。

**企業の営業活動の記録が
決算書にまとめられている**

ここでちょっと考えてみてくだ
さい。担当者として、ただB／S
やP／Lの数字だけを確認してそ
の変化を見たり、財務指標を計算
したり、各項目を比較したりする
だけでよいのでしょうか。

実は決算書には、企業の戦略や
社長の思いが表れるものです。社
長が「在庫を減らそう」と思え
ば、在庫は減っていきははずです。
「経費を削減する」と全社員が努
力すれば経費率は低下するはずで
す。このように、決算書が企業の
方針どおり動いているかどうかを
見ることも大切です。

企業のこうした営業活動を知ら
ずに単に決算書の数字だけを見て
も、的確な分析や実態把握はでき
ません。企業がどこから何をいく
らで仕入れて、どんな商品を製造

す。簡単に見ていきましょう。

貸借対照表は、決算日における
企業の財政状態を表す書類で、
「資産」「負債」「純資産」が記載
されています。負債とは返済の必
要のあるモノやお金のことで、純
資産とは資産から負債を引いた差
額で返済の必要のないモノやお金
といえます。どちらも貸借対照表
の貸方（右側）に記載されてお
り、資金の調達方法を示していま
す。一方、借方（左側）に記載さ
れる資産は資金の運用方法を示し
ています。

損益計算書は、1年間の経営成
績を示すものです。「売上」から
「費用」を引き、5段階に区分し
て利益が表示されています。売上
はいくらで、いくら費用を使っ
て、どれだけ稼いだのかという経
営成績を明らかにするものです。

し、どんな販売先にいくらで売っ
て利益を出しているのか——具体
的に把握しなければならぬので
す。

企業は「商品を買って購入代金
を支払った」「商品売って販売
代金を受け取った」など、1つひ
とつの取引（モノやお金の流れ）
を記録し、帳簿に記入していま
す。この帳簿の取引記録を1年間
積み重ね、各項目の金額を集計
し、前期から繰り越した残高と合
計して決算書を作っています。

こうした流れ、取引、方針など
を理解して決算書の分析を進めま
しょう。決算書の数値だけを確認
するのではなく、取引の過程とお
金の流れを把握していれば、資金
ニーズを把握できるだけでなく、
業況の変化や、利益操作などの不
自然な数値にも気づきやすいとい
えます。

財務改善の提案や融資ニーズの
発掘ができるよう、企業の営業活
動を踏まえて決算書をしっかり分
析してビジネスチャンスを広げる
きっかけにしましょう。